

学園だより

発行 学校法人
 ノートルダム清心学園
 清心中学校
 清心女子高等学校
 倉敷市二子1200
 ☎701-0195
 TEL(086)462-1661
 FAX(086)463-0223
 URL <http://www.nd-seishin.ac.jp>

編集 広報部



入学式

この期待に応えるために、毎日の学校生活においても教室で静かに座って先生から授業を受けるだけでは不十分であって、生徒は学習によって得た知識を活用、応用して、自分なりの考えを持ち、それを相手にどう伝えるか、ひいては、自分の意見をもって相手をいかに説得するかなど、相手とよいコミュニケーションをとる力をもつことが求められます。また、自分は、何が

得意で良くでき、何ができないか、など自分を知り、伸ばすことが大切になります。「確かな学力」と、人として求められる誠実、堅忍、協力などを体得し、有意義な学校生活を送るよう願っています。

私たちは、それぞれの生徒が、将来、自分を生かして活躍する道を選択できるよう、保護者の皆さまのご協力とご支援を得て、日々の生活、学習指導に尽力したいと思います。お待ちしております。

新緑が目にしみる頃となりました。新年度初めの行事も滞りなく終了し、生徒たちの元気のよい声が校内に聞こえています。天候不順が普通になった昨今ですが、中一オリエンテーションの戸外の活動では新緑の深山公園散策を満喫し、高一の学習合宿も有意義なものとなりました。

今や、国際間はもちろん、身近な地域社会にまで及ぶようになりました。将来海外で、また国際化の進んだ日本社会の中で、諸外国の人々と共に働き、活躍できる人になるということは、ただ言語や技術の習得だけでなく、その人の心身の成長が問われることでもあります。将来の社会を担う生徒たちに寄せられる期待は、大きなものとなっております。



学年始めのミサ



校長 Sr. 小谷 恭子

生徒会長あいさつ



中学生徒会長 堀内 菜央

生徒の皆さんは新しいクラスにも慣れ、充実した学校生活を送っていることと思います。中学生徒会も清心学園をよりよいものにするよう、全力で頑張ります。現在は文化祭に向けて四人で案を出し合い、楽しい文化祭となるような企画を考えています。また、週に一回、朝の挨拶運動を行っています。たくさんの方が笑顔で挨拶を返して下さるので、とても嬉しく思います。これからも様々な活動に一生懸命取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。



高校生徒会長 岡阪 美心実

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな生活が始まった四月はどのように過ごせたでしょうか。先日の部活動紹介で気になる部活動はありましたか。沢山見学して、どこに入るか決めてください。勉強や部活動など、どんなことでもいいので、日々の目標を立てて一つずつ努力と気合いでクリアしていきましょう。まだ始まったばかりで不安もあるかと思いますが、上級生も全力でサポートしていきます。いつでも遠慮なく頼ってください。

中玉野オリエンティヤ

中1学年主任 森 茂樹

満開の山ツツジに囲まれた玉野スポーツセンターで、天候にも恵まれ、予定通りの日程を進めることができました。

一日目に、校長先生からお話を聞き、グループごとに、「誓いの言葉」を決めて模造紙に清書しました。

二日目の夜のキャンドルサービスでは、誓いの言葉を暗唱し、聖歌7曲を歌詞カードなして大きな声で歌いました。

こうした活動の中で生徒たちは、清心生としての自覚と誇りを持つことができたことでしょう。自分たちで立てた誓いを忘れずに、今後の活躍を期待しています。



キャンドルサービスの様子

ボルネオ研修

高2E 須藤 綾乃

私たちは11日間、マレーシアのボルネオ島へ研修に行きました。マレーシアは生物の多様性が豊かな国です。日本では見られない貴重な植物や動物に出会いました。

最も印象に残ったのは野生のカニクイザルが私たちの弁当をとって森へ帰ったことです。野生動物と人がとても近くで生活していることに驚きました。一方マレーシアは現在、町の開発がさかんです。

リゾートホテル建設のため、水上村の住民が立ち退かされた。林は伐採され、プランテーションになり、生物のすみかが減っています。ボルネオのサイは絶滅の危機にあり、私たちはこれらの問題についてディスカッションしました。普段はこんな真剣な話をしない友達とも、ホテルで解決策について話しました。私を一番変えたのはこのディスカッションでした。この研修はとても充実していて、私は色々なことを考えさせられました。人に親切にしてもらうことの温かさや



水上村の様子

ありがたさも実感しました。私はこの研修で学んだことを多くの人に伝えていきたいです。



キャノピーウォーク

イトルダム・サンノゼ高校への短期留学

グローバル教育課 小寺 裕之

「グローバル社会と女性」という研修テーマを掲げて姉妹校への短期留学を実施しました。本校の生徒は、発展科目「女性」や人権学習で学んだ「ジェンダー」「ワークライフバランス」などの女性学に関するプレゼンテーションを英語で行いました。また、現地の高校一年生による「社会に貢献した女性の活動を調べる活動(WPP)」、高校四年生による、各自が参加したボランティア活動や地域貢献活動の取り組みをもとに「ひとりの女性として社会に訴えたいことを発表する活動(YWAS)」の成果発表会などに参加して、とても貴重な体験をすることができました。また、スタンフォード大学やフェイスブック本社を訪れたり、日系移民の方が大戦中に受

SSH1年とSGHアソシエイト

教頭 森 雅子

本校のSSH事業は二期十年目を迎え、まよめの時期に入っています。プログラム全体の評価として今までの成果と課題の検証を行わなければなりません。しかし同時に新しい取り組みにもチャレンジします。新たにタブレットなどの次世代情報機器の活用やマレーシア、ジョホール STENEMGONG IBRAHIM GIRLS' SCHOOLとの交流を行う予定です。ディベートや科学研究で非常に高いレベルの女子校で来校されるのが楽しみです。さらにESDの観点から離島の中学生との交流で地球環境学習を深めたり、恒例となっている秋の「集まった苦難の歴史について話を聞いたりしました。同じ創設者のもとで学ぶ姉妹校NDSJの短期留学第一期生となったことを生徒たちは誇りに思っています。

今年度四月には文科省よりSGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト校に指定されました。本校が実践してきたグローバル教育を基盤として、より多くの教科・科目で協働学習やアクティブ・ラーニング型の授業を取り入れます。世界に視野を広げた「地球市民」としての教養を身に着けたグローバル・リーダーの育成に向けて講演会や研修を企画していきます。NDSJ校への短期留学はその第一弾と位置付けています。

二子の丘

企画教員 山田 直史

緑豊かな二子の丘も、手を加えないでいると植生が進み、人を寄せ付けない森へと変化してしまいます。校内ESD企画として『二子の丘レンジャー』を募集しました。昨年度は、主にバス通り斜面の間伐や下枝刈りを行い、視界が良くなり陽が差し込むようになりました。今年度の4月には「たけのこ掘り」を行い、19名の生徒とともに修道院裏で多くのたけのこを採りました。自然と共に生活する体験を与えてくれるこの二子の丘に改めて感謝いたします。



ノートルダム・サンノゼ高校にて

聖ジュリーの目 各学年活動報告

中学1年主任 森 茂樹

中1は、「聖ジュリーを知ろう」をテーマに活動しました。前日は聖堂でシスター小田から聖ジュリーについてのお話があり、当日は、彼女の生涯を十八の場面にして絵を描き、ステージで発表しました。また、チャイルド・ファンド・ジャンの木村 訓子先生からフィリピンやネパールで、学校に通えない子供達を支援しているお話をお聞かせいただきました。



聖ジュリーについてのポスターセッション

中学2年主任 隅田 由香

岡山市にある「ひらた旭川荘」を訪問し、午前中は奉仕活動として草取りや掃除をさせていただきました。午後は利用者の方々との交流会を実施し、学校で作ったカードを使っての自己紹介から始めて、赤白ゲームや風船バ

レーを楽しみました。始めはお互いの遠慮がちでしたが、最後に「世界に一つだけの花」を全員で合唱することができました。障害のある方と接するのは初めての生徒も多く、大変良い経験になったと思います。



交流会の様子

中学3年主任 Sr.森脇 尚美

午前中はガイドヘルプ体験と高齢者疑似体験を行いました。視覚障がい者や高齢者の方々が感じてもらえる不自由さを体験する貴重な時間でした。午後は点字、要約筆記、朗読の三つの講座に分かれて活動しました。相手の立場に立つて考えることやコミュニケーションを取ることも大切さに改めて気付くことができました。自分から周りの人々に声をかけていかれた聖ジュリーのように、生徒たちも他者のために積極的に行動できる人になってほしいと願います。

高校1年主任 松本 浩和

午前中はチャイルド・ファンド・ジャンパンの方から、活動内容とフィリピンの子どもたちの現状をお聞きしました。私たちの支援の意義を再確認するとともに、現地の生活の様子から本当の豊かさについて考えさせられました。午後は各クラスで手話体験を行いました。講師の方に教わりながら手話での自己紹介に挑戦したり、聴覚障がいのある方の体験談を聞き、私たちができる支援の方法について考えました。

「自分にできること」は何かを考える1日になりました。

高校2年主任 藤原 弘暁

高校2年生はクラス毎に特別養護老人ホームや知的障害者施設などに訪問させていただきました。各施設ではグループに分かれて清掃や作業などの奉仕活動を行い、レクリエーションや食事の時間を通して入居されている方と交流をさせていただきました。限られた時間の中ではありましたが、創立者の精神や校訓に通じる愛と奉仕の心について学び考えることができましたのではないかと感じています。

また、外国籍の方が多く働か

ていることに新鮮さを感じ、グローバル化著しい時代であることを改めて意識しました。

今回の貴重な経験を今後の生活に生かし、国際的に社会で活躍、貢献できる女性に成長してくれることを願っています。

高校3年主任 橋岡 源九郎

高校3年生は、午前中、AMD Aの方をお招きして「グローバル社会で活躍する人材になるためには」という演題で話をさせていただきました。講師の先生が学生の頃から行っていた活動の話から始まり、「行動すること」の大切さを伝えていただきました。午後は障害児教育・福祉の先駆者である石井筆子の生涯を描いた映画を鑑賞しました。人のために尽くすこと、信念を貫くことの素晴らしさを確認することができた時間でした。これらの行事を通して、人のために、社会のために役立つ女性に成長してほしいと願っています。

す。



AMDAの活動について

中学英語科主任 岩井 久子

中の英会話合宿



英会話合宿の様子

2015年3月20日から2泊3日で、本校クビリーホールにて希望者76人が英会話合宿を行いました。ネイティブ教師5名と英語科日本人教師2名の指導のもと、3日間英語を用いて生活するとともに、中3の7月に実施されるオーストラリア研修に向けた工夫いっぱいの活動やゲームなどを楽しみました。

英会話合宿で見せてくれた生徒たちの表情は、日頃の授業や学園生活では見られない表情で、英語に対する見方や考え方が広がり、より英語が大好きになっていっています。

今回の体験をオーストラリア研修に活かし、英語を使って多くの人とコミュニケーションを積極的に図り、自分たちの思いや考えを伝えることができることを願っています。

